

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ う思わない ■ 知らない

| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | 考察 |
|--|--|---|
| 1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など) | 2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。 | 豊かな心と体を育む教育に関しては、保護者・児童・教職員の9割以上肯定的にとらえている。このことは、学校の取組をホームページや学校だより等、発信し続けていることが要因のひとつと考えられる。一方、自ら取り組む授業づくりについては、児童の肯定的意見は8割と他よりも低くなっている。今後、児童自らが、主体的に学ぶこと、協働的に問題を解決することのよさを実感できる授業を展開する必要がある。 |
| | | |
| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | |
| 3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など) | | 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育については、保護者・教職員の9割が肯定的にとらえていることに比べ、児童の肯定的な意見は8割弱となった。学校生活の中で、児童自らが社会の一員としての自覚を持ち、地域社会をより良くしようという思いを持たせる取組が今後の課題となる。本校で開催される地域の行事との関連を意識させることで、地域の一員としての自覚を持たせることにつながると考える。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。 | | 対話を通じた学びに比べ、児童が、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりに対する肯定的な意見が少ない。特に保護者の肯定的な意見が8割を割っている。児童は日常的に個別最適な学びを体験しその効果を実感できるが、保護者とその効果を直接感じる機会が少ない。授業参観等において保護者が学校の取組を体験できる機会を増やすことが今後の課題となる。 |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。 | | 7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。 本校は、開校以来熊本支援学校との交流が続いている。互いに自分の思いを素直に伝えあう環境が整っていることで、「共に学ぶ」ことへの意識は高まっているといえる。他者を思いやる気持ちを、すべての教育活動で育てていくことを、これからも続けていきたい。 |
| | | |

| (3) 最適な教育環境の整備 | | |
|--|--|---|
| 8 安全・安心な園づくりの推進 | 9 地域や家庭と連携した教育環境の整備 | |
| 学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。 | 学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。 | 本校区は、学校で開催される地域やPTAの行事が多くある。そのため、学校において児童と地域住民が交わる機会が多いといえる。地域や家庭と連携した教育環境が整っていることで、肯定的意見が9割を超えた。また、登下校における見守り活動も盛んに行われており、有事の際にはすぐに学校へ連絡が入る体制も整っているといえる。この体制を今後も継続していけるよう、地域や家庭との連携を深めていきたい。 |
| | | |

| (4) こどものいのちと権利の擁護 | | |
|--|--|---|
| 10 こどもの最善の利益を守る環境づくり | | |
| 学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。 | | 保護者と児童の肯定的な意見が、どちらも8割となっているが、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」「わからない」と回答している割合が2割いることから、すべての人が相談しやすい学校づくりを目指したい。児童の様子を見つめ、保護者や地域と対話を繰り返しながら、児童にとって安心して通える学校を目指していきたい。 |
| | | |

| 独自項目 | | |
|---------------------------------|-------|---|
| 11 あいさつ | 独自項目2 | |
| 学校は、あいさつができるこどもの育成に努めていると思いますか。 | 0 | |
| | | 保護者、児童、教職員共に肯定的な意見が9割を超えている。地域からもあいさつがよくなっているという意見を聞くことが多くなった。これからも、児童の自尊感情を高めるべく、取組を進めていきたい。 |

来年度の具体的な取組について

○本年度、学校の様子を多くの人に知ってもらおうと、学校ホームページでの発信に力を入れた。保護者、地域の方から「学校の様子がよくわかる」との言葉をいただいた。児童の今の学びを発信していくことで、保護者や地域の皆様に学校に対する興味を持ってもらえるようにこれからも続けていく。

○本校の研究目標である「豊かな学び手」の育成を目指していく。具体的には、児童が主体となり、仲間と協働しながら学ぶこどもを育成する。児童が学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに努めていく。

○児童が「社会の一員としての自覚」を促す学習活動を仕組む。相手意識をしっかりと持たせる学習活動を仕組んでいく。

小中学校関係者評価

- ・令和6年度は、前年度に比べて各項目において、保護者の「そう思う」の比率が、児童や教職員の比率に近づいている点について、学校ホームページの充実・強化など様々な取組によるものと思われる。
- ・質問7の問いに対する児童生徒の「そう思う」の比率が、教職員の比率を上回っている点について、熊本支援学校との交流など他校にはない取組の結果であると考えられる。相手を思いやる優しい心を、いつまでも持ち続けてほしい。
- ・学校の取組をホームページですぐに紹介してもらっている。学校の様子がよくわかり、ありがたい。今後も続けてほしい。
- ・校長先生をはじめ先生方の熱意が、子どもたちに伝わっていると思う。感謝したい。